

第十一章 素材庫

ときには、帯のこ盤を停止させることなく、加工材を帯のこ盤側からスパイクのかかるところまで引っ張ることがあった。

災害発生時も被災者Aは帯のこ盤側から加工材を引っ張った。このとき、被災者Aの服の右袖がスパイクに引っかかり、とれなくなってしまったので、近くにいた作業員Bが非常停止ボタンを押した。

ところが、帯のこ盤は以前から調子が悪く、しばしば停止することがあったためにモーター制御部分が修理中であり、現場の判断で修理中も仮使用ができるように電源を直結させていた。このため、非常停止装置が作動しないようになっており、帯のこ盤は停止せず、被災者は帯のこで頭部を切断され、まもなく死亡した。

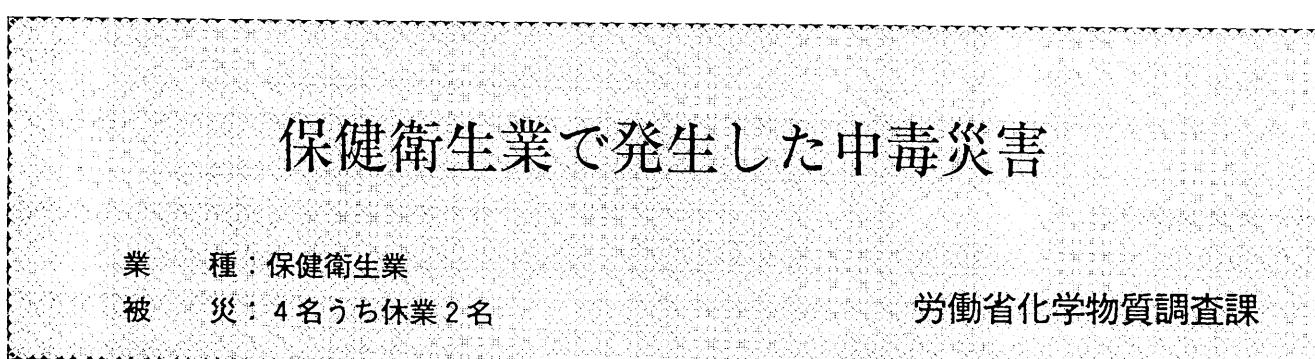
2. 災害発生原因

- (1) スパイク付きローラーの非常停止装置が修理により有効に作動しないことを知りながら、帯のこ盤による作業を行っていたこと。
 - (2) 被災者が停止した加工材をスパイク付きローラーに送るときに、帯のこ盤を停止させなかつたこと。

- (3) 被災者の服装が巻き込まれやすいものであったこと。
 - (4) 事業主、工場長等が帯のこ盤の安全装置の点検、補修等を行わず、帯のこ盤の使用の可否を判断しなかったこと。
 - (5) 加工材の停止、修理等の非定常作業について、労働者への教育が不十分であったこと。

3. 再発防止対策

- (1) スパイク付きローラーの非常停止装置を有効な状態に保持し、点検すること。
 - (2) 加工材をスパイク付きローラーに送るとき等の非定常作業では、帯のこ盤を停止させること。
 - (3) 作業の内容に応じ、巻き込まれにくくい服装にすること。
 - (4) 事業主が、木材加工用機械作業主任者等に職務を徹底させ、安全装置の点検、補修等を適切に行わせるとともに、帯のこ盤の使用の可否を適切に判断させること。
 - (5) 加工材の停止、修理等の非定常作業について、労働者への教育を徹底すること。



1. 災害の概要

ガス滅菌装置の運転を行っていたところ、そこで作業をしていた労働者が下痢、嘔吐の症状を呈したものである。

2. 災害について

(1) 業務の内容

医療器具等の滅菌消毒を行い、滅菌消毒後の材料について、搬出を行うのが通常の業務である

3

滅菌消毒については、圧力容器を用いた高温蒸気滅菌とエチレンオキサイドを用いたガス滅菌を行うものであり、前者は毎日数回行うが、後者は週3回行うものである。なお、災害当日滅菌消毒作業に従事していた作業者は被災した4名である。

滅菌装置には取り出し用の扉が2つあり、1つは保管室サイドにあり、もう一つは組立室サ

災害事例

イドにある。

3. 災害発生状況

午前10：30頃、当日滅菌作業の担当であった被災者Aがガス滅菌装置のスイッチを入れた上で、保管室で作業を行っていた。他の3名の作業者は組立室で作業を行っていたが、Aがふらつきながら組立室に11：40頃やってきて、座ったまま立てなくなり、頭痛、嘔吐をもよおしたので病院で診察を受けた。

組立室で作業を行っていた他の3人も、Aの具合が悪くなる前から眼の痛みやのどの痛みを訴え、昼食後には、頭痛や下痢をもよおしており、病院にて診察を受けた。

Aが被災した後に、保管室で異臭がしたため、ガスボンベからのガス漏れを疑い、滅菌消毒装置の製造メーカーに調査の依頼をしたところ、装置の扉に滅菌を行う材料を入れる袋が挟まっていた。

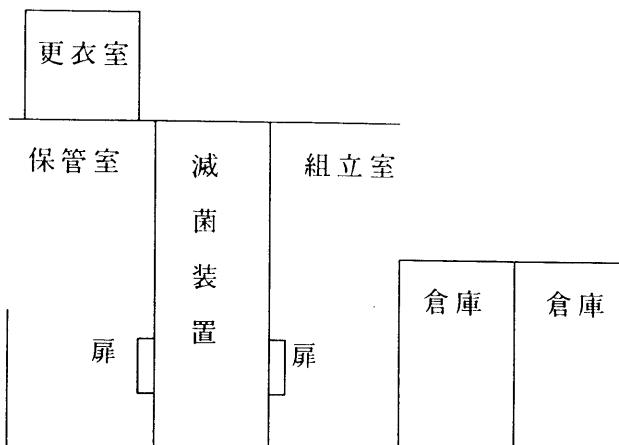
装置の取扱いについては作業場に取扱い説明書は常備されており、また、作業手順については作業者に説明がなされていた。

また、装置の定期点検は行っていなかったが、1月前に、メーカーが点検を行ったところ、扉のパッキンの取り替えを指摘されていたが、取り替えは実施されていなかった。

また、安全衛生委員会等は行われていなかった。

4. 災害発生原因

- (1) ガス滅菌装置の始動に際して点検を十分行っておらず、扉に材料を入れる袋が挟まつたことでエチレンオキサイドが漏えいしており、作業標準の遵守を十分に行わせてていなかつたこと。
 - (2) パッキンの取り替えが指摘されていたにもかかわらず実施しなかつたこと。
 - (3) 定期的にガス滅菌装置の定期自主検査を実施していなかつたこと。
 - (4) ガス漏れに対する警報装置の設置がなされていなかつたこと。
 - (5) エチレンオキサイドを使用する作業につい



て、その有害性等について安全衛生教育が十分行われていなかつたこと。

- (6) 衛生委員会において、取り扱う物質による有害性等に応じた対策について調査審議されなかつたこと。

5. 再発防止対策

- (1) ガス滅菌装置の始動に際しての点検等、作業標準の遵守、徹底を図ること。
 - (2) 定期的なガス滅菌装置の定期自主検査の実施及びその結果に基づく補修を行うこと。
 - (3) ガス漏れ警報装置を設定する等により早期に異常を把握できるようにすること。
 - (4) エチレンオキサイドを使用する作業について、その有害性等についての安全衛生教育を十分行うこと。
 - (5) 衛生委員会において、取り扱う物質による有害性等に応じた対策について調査審議を行うこと。

なお、化学物質の取扱いにおいては、それぞれの化学物質が多かれ少なかれ持つ有害性等の情報を、業種を問わず、各事業場においてそれを取り扱う作業者に十分知らせることが重要である。